



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2026年(令和8年)9月15日号 No.2034

目次

■ 25年目を迎えた上海協力機構	1
■ 統計速報	8
2026年1～6月のロシアの主要経済指標／8	
2026年1～7月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／12	
2026年1～7月の日ロ貿易／13	
■ トピックス	16
日朝間の新たな自動車橋が開通／12	
北海道エアポート、モンゴルの空港運営会社と連携／13	
山田経済産業副大臣が中央アジアを訪問／12	
ロシア中銀、政策金利を14%で据え置き／12	
BRICS首脳会議開催／13	
米国、イラン支援でロシアVTB銀行に追加制裁／13	

25年目を迎えた上海協力機構 ーサミットとバイ会談に見る加盟国の思惑ー

(一社)ROTOBO ロシアNIS経済研究所
研究員 齋藤 竜太

はじめに

8月31日から9月1日にかけて、キルギスの首都ビシケクにて第26回上海協力機構(SCO)首脳会合が開催され、これに合わせて数多くの二国間会談が実施された。今号ではその内容について取りまとめた上で、解説・考察を行う。

SCOは、冷戦期に深刻化した中ソ国境問題について引き続き取り組んできた中ロおよびカザフスタン、キルギス、タジキスタンからなる上海ファイブと呼称される枠組みを母体とする。2001年にウズベキスタンが参加してSCOが発足し、今年で25周年となる。本部は北京に置かれている。国境問題の解決を出発点としたことから、テロや分離主義への対応といった安全保障を主な活動分野とし、2003年からはテロ対策を目的とした「平和の使命(Peace Mission)共同演習」を実施している。その後SCOは経済分野や人文分野など、安全保障以外にも活動範囲を拡大している。2001年に上海で実施された第1回首脳会合で宣明された、相互信頼、互恵、平等、協議、多様な文明の尊重、そして共同発展の追求を特徴とする「上海精神」が、SCOの中核理念とされている。加盟国は2026年9月現在で、10カ国(中ロ、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、インド、パキスタン、イランおよびベラルーシ)に拡大した。